

トラック6 彼女にとってのヒーロー

【董】……さやかちゃん…何の用だろ…？なん

わざわざ屋上に呼び出すなんて…。

もしかして、西園寺君のことかな…。さいおんじ

【董】あつ…さやかちや…。

【さやか】如月てめえ、性処理係になったからって、きげい
はあと春斗君とイチヤついてんじゃねえぞこらっ！

【董】へ…？

【董】ったっ…！

ご、ごめんっ、さやかちゃんっ！

あ、あの…でも、少し誤解があるんじゃない…。

【さやか】ああん？？

どうせ元カノって立場利用して、

はると春斗君のこと、いいように扱ってんだろっ！あつか

【董】だ、だから誤解だってっ…！

私はただ、性処理係のお仕事をこなしてるだけでっ…！

【さやか】このっ…！

【董】ひう…っ！

【董】…さ、西園寺君…。さいおんじ

【さやか】春斗君…！？ 何でここに…。

ん…な、なにつて…別に何もしてないけど…ただっ…！

コイツが元カノの立場利用して、

春斗君といいようになろうとしてんのが、

春斗君のファンとして、気に入らないだけ！

【さやか】え…悪くないって…どういうこと？

なっ…！

は、春斗君があの特例作って、

自分から如月のパートナーに申し出たの！？

【董】さ、西園寺君…。

【さやか】…私に口を挟む権利はない…か…。

それが本当なら、確かにそうかもだけど…。

…っ…如月…急に突っかかりして…ごめん…悪かった…。

私…ずっと春斗君のファンで…その…勝手に勘違いして…。

【董】う、ううん…私もさやかちゃんに、

嫌な思いさせてたみたいだし…ごめん…。

【さやか】いや、あたしが変に決めつけて、

突っかったただけだから…。

アンタが謝る必要ないよ…。

…ん、んじやつ、あたし、教室戻るから…。

…だ、大丈夫…で、でも…私、

さやかちゃんみたいな、

ギャルの子たち、好きだから…。

怒らせちゃったのが、申し訳なくて…。

…ありがと…。

私、大学目指してるから、

できれば成績、落としたくないんだよね…。

………そういえばさ…さっきの話…ほんとなの？

さいおんじ
西園寺君が、自分で学校に申し出たって…。

さいおんじ
そっか…西園寺君の家…確か、お金持ちだもんね…。

でもすごいね…そんなことまで出来ちゃうんだ…。

そこまでして、特例まで作って、

私の性処理相手になりたかったんだ…。

も、もういいってば…謝んなくて…。

助けてくれたじゃん…。

…ちよつとだけ…

ちよつとだけ…かつこよかったよ…。

ヒーロー…みたいだった…。